

# 次期森林計画についての森林管理署の検討方向

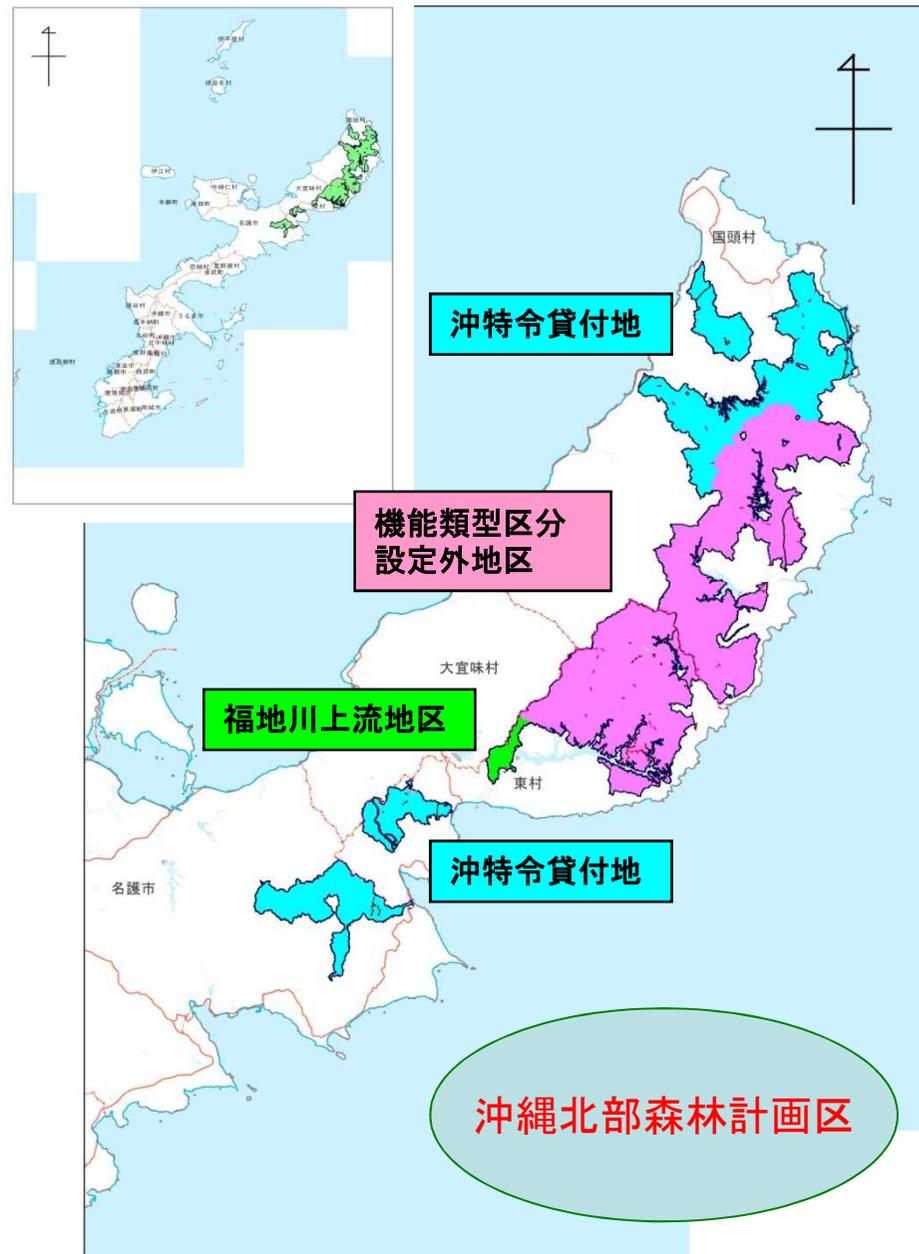
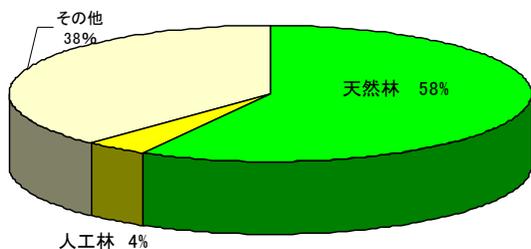
〈沖縄北部森林計画区〉

沖縄森林管理署

# 1. 現行計画の概要(平成21年4月1日～26年3月31日)

## (1) 森林計画区の概要

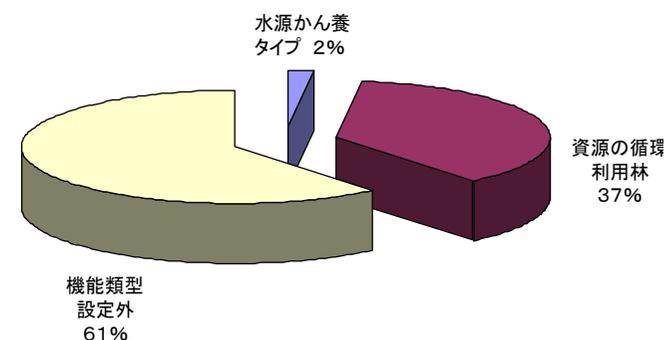
- ・ 沖縄北部森林計画の対象は、①福地川の上流に位置する福地川上流地区、②ほとんどを沖縄防衛局に米軍の沖縄北部訓練場として使用承認している機能類型区分設定外地区、③沖縄県に貸付され沖縄県が県営林として管理経営している「沖特令」による貸付地に区分し、その面積は約1万2千haとなっています。
- ・ 計画区内の国有林は、スダジイ、イスノキ、タブノキ等の天然林が58%、リュウキュウマツの人工林が4%となっています。
- ・ 沖縄北部国有林には、特別天然記念物に指定されている国内希少野生動物のノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ等のめずらしい動物が生息しています。



## <機能類型別面積>

公益的機能の維持増進を旨とする方針の下、重点的に発揮させるべき機能によって次の3つの類型に区分し管理経営を行っています。

区分		面積ha	機能
水土保全林	国土保全タイプ	—	土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他の安全で快適な生活環境と国土基盤の保全・形成に係る機能を重視
	水源かん養タイプ	182	国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重視
森林と人との共生林	自然維持タイプ	—	原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重視
	森林空間利用タイプ	—	スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の活動の場や優れた景観の提供及び都市又はその周辺の風致の維持に係る機能を重視
資源の循環利用林		4,399	公益的機能の発揮に配慮しつつ、効率的に木材等の林産物の生産を行うことを重視
機能類型設定外		7,377	ほとんどが、日本国とアメリカ合衆国間の日米地位協定等により、沖縄防衛局に使用承認している箇所



(注) 不要存置林野63haを除く。

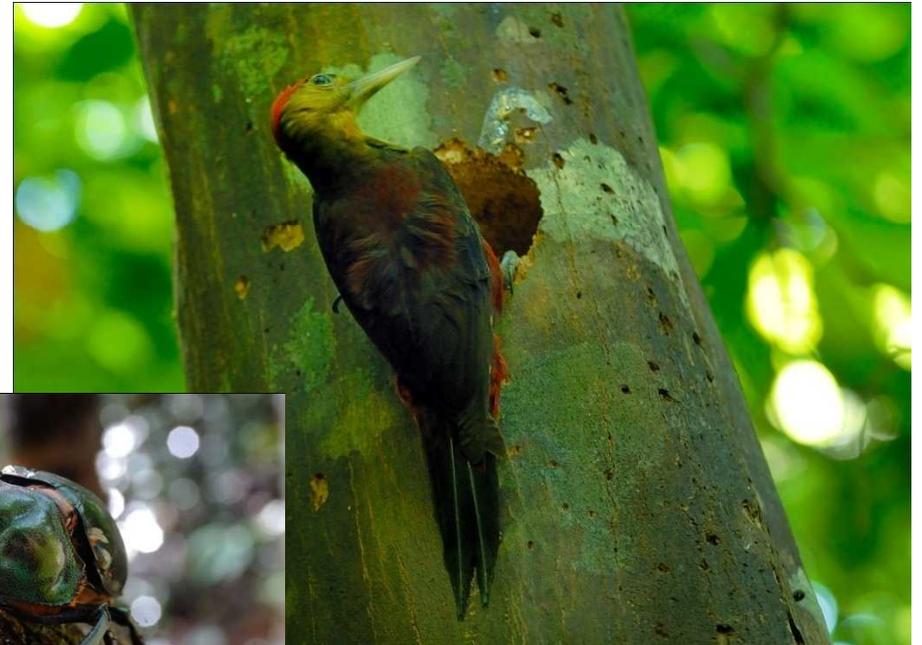
## (2) 計画の概要

### ① 貴重な野生生物のための森づくりの推進

本計画区は貴重な自然環境としての天然林の占める割合が高いため、鳥獣保護区を指定し、継続的な巡視や調査研究を行うなど、国内希少野生動物のノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネ、ヤンバルクイナ等の生息環境の維持を図っています。



ヤンバルクイナ



ノグチゲラ



ヤンバルテナガコガネ

## ② 国民参加の森林づくりの推進

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

郷土樹種「イヌマキ」等の植栽・保育等を行ってもらうなど、体験学習を通じた森林環境教育の実施、木の文化を支える「首里城古事の森」などの森づくり活動を推進しています。



「首里城古事の森」での植樹・育樹活動の様子

## 2 次期計画の検討方向

### (1) 管理経営上の課題

- ・ 本計画区の国有林野は、沖縄本島における水がめとして重要な役割を果たしており、国有林内に存在する4つのダム流域の森林は、水源かん養機能の発揮や土砂の流出防備等の機能の発揮に対する要請が高いため、これら公益的機能の発揮を高めていく必要があります。
- ・ 本計画区の国有林野には、国内希少野生動物のノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ等が生息しており、生物多様性が高いことから、次期計画においても、森林生態系の保護・保全をさらに図っていく必要があります。
- ・ 次期計画においても、国民参加による森林づくりの要請に適切に応えていく必要があります。

### (2) 計画内容

- ・ 公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行う考えです。
- ・ 希少な野生動植物種が生息・生育している地域であるため、研究機関と連携を図り、生物多様性の保全を推進する観点から、共同研究を行うことにより、生息環境保全の取り組みを推進する考えです。
- ・ 森林・林業に関する情報の提供を行い、国有林のフィールドを活用した国民参加の森づくりの一環として、体験学習を通じた森林環境教育を推進する考えです。